

令和8年度 学校評価 【 計 画 書 ・ 報 告 書 】

加賀市立錦城小学校 校長 吉野 亨 印

学校教育ビジョン 「自ら考え、協働できる児童の育成」～自分も人も笑顔になれる学校をあなたとわたしでつくる～ ・目指す児童像 信頼（自分も人も大切にする子）協働（「自ら」行動できる子）努力（粘り強く頑張れる子） ・目指す教師像 学び・挑戦できる教師、児童のやる気を高められる教師、すべての人と協働できる教師 ・基本方針 学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 ④学校研究の推進 ⑤地域とともに 組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。										
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎的な学力をつけるために組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して、安定的な学力向上のシステムを確立する。	学力向上をめざした持続的な組織体制の強化のために、学校研究との連携を図りながら授業改善を進め、学力の定着度を図るための見取りをする。 その上で、現状を分析し、基礎力向上のための策を提示する。	授業づくり・学力向上部 教務主任	昨年度の結果から、前年度までの積み残しが多く、当該学年の学びに追いつかない児童が複数名いることが分かっている。授業の中・家庭学習でスパイラルに復習しながら、個々の基礎力をつけるとともに、学級全体が当該学年の学習内容を積み残さない手立てを図る必要がある。	【努力指標】 全教職員が授業改善に取り組むとともに、授業での学びを確実なものにする。	国語・社会・算数・理科における学期末テストの到達率が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	子どもたちが毎日笑顔で生活できる学校を作る。	・全校を巻き込んだ児童会活動の充実を図る。 ・月に1度、教師が児童の良いところを見つけ掲示する「ほめほめweek」を実施し、児童を肯定的に見る取組を行う。 ・週に1度の学活の時間にスマイルトークタイムを実施し、自分の考えを誰とでも気軽に話することができる友達関係をつくる。 ・学期に2回程度、生徒指導より、協調性を高める活動を提案・実施し、児童同士の横のつながりを強くする。 上記の4点を推進することで、いじめの未然防止につなげる。	生徒指導主事	・教職員が児童を肯定する雰囲気が職員全体に広がってきている。今年度も「ほめほめweek」を実施し、この雰囲気を新しい職員にも浸透させていきたい。 ・昨年度、児童同士の横のつながりを強くするために「スマイルトークタイム」を実施したが、学級によって取組具合の差が生まれた。今年度は朝の時間ではなく、学活の時間に行うことで、児童の良い姿を評価する時間を確実に確保し、誰とでも気軽に話す関係をつくっていきたい。	【満足度指標】 児童が学校生活を楽しいと感じている。	児童生活アンケートで、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 毎月、児童にアンケートを実施する。			
③キャリア教育	みんなの笑顔のために、働くことや責任を果たすことで、達成感を感じさせたり、仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで、自己肯定感を高める。	係活動や委員会では、めあてをもたせ、さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで、責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。	児童会担当	前年度アンケート結果より、自ら活動等に参加できていると回答した児童の割合が多かった。委員会ごとにイベントも充実していた。課題として、他の委員会のイベントに自ら参加する児童が少なかった。	【成果指標】 みんなの笑顔のために、進んで係活動や委員会に参加する児童が増えてきている。	みんなの笑顔のために、それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
④保健管理	学校生活のあらゆる場面で姿勢を意識させ、成長期に必要な健やかな発達を促すために、正しい姿勢を心がけようとする児童を育成する。	正しい姿勢の保持の啓発のため、年間を通じて姿勢体操やよい姿勢の児童の表彰を行う。学期ごとに姿勢の重点項目を設定したり、児童主体でよい姿勢の児童を演出させ、年間を通じて継続して意識を高めていく。また、学校保健委員会で専門家を招き、体幹を鍛える運動等を学ぶ場を設定する。	保健主事	本校男子児童において、側弯症疑い及び継続観察者が増加している。また、授業中に姿勢の保持が難しい児童がいる。	【成果指標】 正しい姿勢をしようとしている児童が増加している。	児童アンケートで「正しい姿勢をしようとしている」と答える児童の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
⑤安全管理	校舎内外における安全教育を計画的に行い、児童自ら、自分の命を守ることができる力を育成する。	学校安全教育計画に基づいた指導や避難訓練時の指導を通して、安全に気をつけて行動する児童の意識を高める。	教頭	安全教育計画に基づいた指導や訓練を行っているが、振り返りや事後指導が不十分であり、児童の意識の変容について把握できていない。	【成果指標】 自分で自分の命を守ることができる力がついてきたと実感している児童が増えていく。	児童アンケートで、「安全指導や訓練を通して、自分で自分の命を守る行動ができていく」と答える児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	各学級に在籍する児童一人一人のニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服して児童が笑顔になるために適切な指導や必要な支援を行う。	全児童の「やればできる」というグロスマインドセットを高めるために、ユニバーサルデザインラーニング(UDL)を意識した授業を行うとともに、支援を要する児童の困り感に応じた指導を工夫する。ICTも活用したUDLを進める。	特別支援教育 コーディネーター	児童一人一人の困り感を早期に捉え、気づき票から実態把握している。定期的に支援委員会を開き、方針の決定・共通理解をしてきた。担任は学期ごとに計画評価し、支援に取り組んできている。	【満足度指標】 困り感のある児童も含めて児童が「やれよ」と思えることが増えた」と感じている。	UDLの実践、困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善により児童アンケートで「やれよ」と思えることが増えた」と答えた児童の割合が、 A 80%以上である。B 70%以上である。 C 60%以上である。D 60%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童アンケートを実施する。			
⑦組織運営・業務改善	教職員が笑顔で子ども向き合い、教材研究や研修の時間を確保し、自ら考え協働できる自律した学びを育成することに注力することができる学校づくりを目指す。	主任層と連携し、チームとして組織化・協働化された学校運営を行い、仕事の平準化、業務の削減を図り、教材研究や研修の時間を確保し、教職員が笑顔で子ども向き合う時間を増やす。	教頭	主任層が連携し、チームとして組織化・協働化することの大切さや、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えている。	【満足度指標】 自ら考え協働できる自律した学びを育成するため、教職員が教材研究や研修の時間を確保できていると感じている。	教材研究や研修の時間を週5時間以上確保できていると感じている職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			
⑧研究	研究主題「自律した学びでの育成3.0～見方・考え方を働かせたふり返りを書ける子ども」を達成する。	「学力向上の基盤づくり『錦城っ子スタンダード』、誰一人取り残さない『授業改善』、子どもが主役の授業づくり『教材研究』」の3本柱を軸として、学校研究を推進していく。	研究主任	「自分にあった学びや学び方を選べない」児童が一定数いる。また、ふり返りの質を向上させる指導に課題がある。さらに、単元テスト・評価問題の結果より、全校として算数に課題を抱える児童が多い。	【努力指標】 教師も児童も「全員参加」の授業を目指している。児童が、「見方・考え方を働かせたふり返り」を書けることを目指している。	スマイルアンケートの該当項目において、児童の肯定的な回答が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			
⑨保護者、地域との連携	生活科・総合的な学習の時間、PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。	計画的に地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを行う。	教頭	地域・保護者と連携を図りながら、生活科・総合的な学習の時間PTA行事や錦城キッズフェスタを計画する。	【満足度指標】 生活科・総合的な学習の時間、PTA活動や錦城キッズフェスタ等を通して、開かれた学校となり、家庭・地域と連携している。	保護者アンケートで、「生活科・総合的な学習の時間、PTA行事や錦城キッズフェスタ等を通して、学校・家庭・地域と連携を図ることができている」と回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に保護者アンケートを実施する。			
⑩教育環境整備	教職員のワークスペースを整備し対話型組織づくりを行うことで、学校づくりスローガンの実現と教育効果を高める。	職員室で対話しやすい空間・ワークスペースづくりを行うとともに、腹落ちするまで対話できる環境を作ったり、本質問取りを学期ごとに行い「そもそも何のために」を共有し合うことで組織力を高め、学校づくりスローガンの実現を目指す。	総務部 予算委員会	4月初めに職員室の空間づくりを行った。学年を超えた対話が出来ている。また、フリースペースを活用した対話や情報共有を行う様子が見られる。学校づくりスローガンにある「本当の笑顔とは？」について対話を行い、キーワードを出し合った。	【満足度指標】 自然に対話が生まれ働きやすい職場になっていると感じている。	教職員アンケートで、「自然な対話があり、働きやすい職場だ」と回答した割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			

学校関係者評価	・学校づくりビジョンの実現に向けて、日課の変更や総合的な学習の時間の改革など新しい取り組みを確実に進めていってほしい。 ・子どもたちの安全確保(特に登下校時)の取り組みを学校、地域、家庭とともに考えていく必要がある。 ・錦城っ子応援隊の方を中心に、子どもの学びの機会を地域により発信してほしい。地域に開かれた学校づくりにより取り組んでいってほしい。 ・学校運営協議会の委員と教職員をつなぎ、より協働できる関係づくりを推進するための取組を行ってほしい(夏休みを利用)。
---------	--